

はまぼうふう vol.8 2002.12.20.

石狩海浜植物保護センター通信

石狩湾や石狩川河口では、冬をここで過ごすカモやカモメたちが、水面で休んだり、潜水したりしている姿が見られます。

石狩川に氷が張りはじめのころ、オジロワシやオオワシも飛来し、精悍な姿を身近に見ることができるでしょう。

葉を落とした防風林では、アカゲラやシジュウカラなどの小鳥たちが、こずえを行き来しているようすを間近に観察できます。

晴れた日、フィールドに出て、冬も盛んに動いている生きものの世界を見てみましょう。新しい発見に出会えますよ。



石狩川河口のオジロワシ（提供：和田順義さん）

石狩冬の野鳥情報

茨戸川～石狩川河口・石狩湾新港のあたりでよく見られるものです。

カワアイサ	ミコアイサ	ヒドリガモ	マガモ
<p>オスは真白なおなかと色の濃い頭、メは頭の冠羽が特徴。</p>	<p>白と黒のもようがきれい。パンダのような顔</p>	<p>オスは顔の真中に薄茶のラインがある。</p>	<p>オスは頭が濃い緑色。よく見られ、親しまれている。</p>
シロカモメ	セグロカモメ	オオワシ	オジロワシ
<p>全体的に白い、体長 72cm ほどの大きなオスメ。</p>	<p>オスメは背中 の羽の色がこい。 背中の色が灰色、体長 60cm ほどの大型のオスメ。</p>	<p>翼と尾が白い大型のワシ。くちばしの黄色があざやか。</p>	<p>尾が白い、大型のワシ。若鳥の尾は白と茶のまだらもよう。</p>
スズガモ	シノリガモ	キンクロハジロ	ウミアイサ
<p>オスは頭が濃い黒～緑。体側の白が目立つ。メはくちばしのつけねが白。</p>	<p>オスは青・赤・白色がまじり、カエルで、口のような。メは白い斑が顔にある。</p>	<p>頭のかざり(冠羽)が特徴。黒い頭に金色の目、体側の白が目立つ。</p>	<p>オスメともに頭に冠羽がある。頭の色は、オスは緑～黒、メは茶</p>

イラスト mhana

石狩生きもの日記

石狩浜をフィールドに調査研究されている方々から、浜に生きる生きものたちのさまざまな情報を提供いただいています。今回から 3 回にわたって、市内花川在住の北海道昆虫同好会会員、小林英男さんが、石狩浜の昆虫について、興味深いお話をご紹介します。

石狩浜昆虫ものがたり

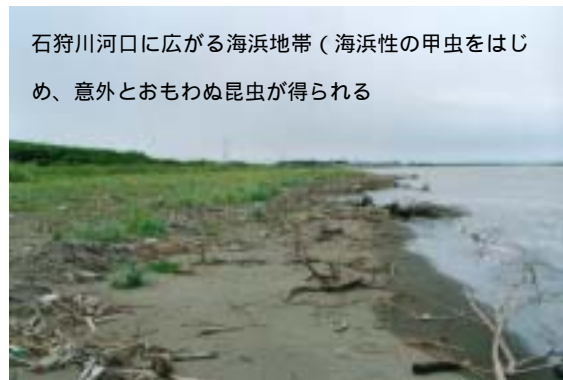
石狩浜の昆虫については、1998年度から調査をはじめ、その成果は北海道昆虫同好会「jezoensis」誌上に発表し、今年で4年目になります。その間、約100種類以上の昆虫を確認してきたわけですが、総括的なものはまだできておりません。しかし、今まで得られた種類を大別すると、大きく3分類できると思います。すなわち、

- (1) 生息域が海浜砂浜地帯であるもの(ハバ、オハネカシ・ウミベアガ、ハネカシ・ハビョウタンゴ、ミシダ、マシ、アリト、キの仲間の一部)
- (2) 海浜地帯の散在する流木(朽木)等に生活を依存しているもの(クガ、タムシの仲間)
- (3) 本来の生息域ではなく、後背地の田畑、草原等から進出し、生活域を広げてきているため、一時的にすみかとしているもの(ハシの仲間、カガ、タムシの仲間等)

です。詳細な検討分析は、いずれ総合的に発表したいと考えておりますが、今回は今まで得られた多くの種類の中からいくつかを取り上げて解説したいと思います。

ここで、おもしろいもののひとつに、コオロギの仲間があります。今までのところ、エゾエンマコオロギ(コオロギ科)、アリヅカコオロギ(アリヅカ科)が見つかっています。

エンマコオロギは、特に道南地方から本州方面に広く生息していますが、ここ石狩で見られるものは、エゾエンマコオロギという種類です。両者のちがいは、エンマコオロギはエンマコオロギより体がひとまわり大きく、(従って小さいほうがエゾエンマコオロギ)頭部から口器(口の型)にかけて白っぽく、これに対してエゾエンマコオロギは、口器までほぼ真っ黒になる点でちがいが見られ、見分けることができます。石狩浜では、流木の下や各種のゴミの下から、ふつうに見つけることができます。



アリヅカ科

アリヅカコオロギ(左)は、体長2~3mmで、体色は褐色、ピロード状の細毛が密生しています。翅も聴器もありません。トビロシワアリ、トビロケアリなど、アリの巣の中に生息している、変わった生活史を持ったコオロギです。北海道から本州、四国にかけて分布しており、いずれも一つのアリの巣の中に1~2頭くらいしか見られず、数は多くはありません。

くわしい生態もあまりよくわかっていないところがありますが、アリがせっせと運んできたエサをちゃっかりと横取りして食べているようです。小さくて見つけにくく、その上跳躍力があるため、なかなかつかまえにくいです。また、体がやわらかいので、展足するのなかなか面倒なものです。アリの巣の中で生活しているなんて、本当に変わったコオロギの仲間ですね。

次回はクワガタムシの仲間について書いてみましょう。

昆虫は1頭<とう>、2頭・・・とかぞえます。

標本にするために、足をのばしたりして、体の形をととのえること。

石狩小学校 1 年生ハマナス香水づくりに挑戦！

石狩浜の豊かな自然と合わせに学校生活を送っている石狩小学校。今年は、1 年生が浜に育つハマナスを材料に、「ハマナスの香水づくり」に取り組みました。

むかし、石狩浜でも、香水の原料^{げんりょう}としてハマナスの花びら^{つぼみ}を摘む子どもたちの姿が見られたそうです。ちょうどいい、おこづかいかせぎだったのです。今では、香水の原料はほとんどが化学香料となり、花摘みの光景は見られなくなりました。

ホームページにまとまった活動のようすを紹介します。(紙面用にレイアウト改訂)

ハマナスのこうすいづくり



ぼくたち、わたしたちは、石狩小学校の1年生です。みんなで協力して石狩の花、ハマナスの香水をつくりました。つくるようすをページにしました。どうぞごらんください。

●はなびらあつめ	●エタノールをいれる	●はなびらをいれる
		
		
<p>みんなで、うら山からハマナスの花をあつめました。においがよかったです。</p>	<p>すこしこわかったけど、アルコールをびんにいれました。</p>	<p>花をアルコールにつけておきます。いろとかおりをだします。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl;">ろくろりす</p>			<p>つゆだけでできてびっくりしました。すごくきれいないろでした。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">せいせいすこすこめでうすめる</p>			<p>きれいなみずでうすめました。そしたらできました。おもしろかったです。</p>

自然観察会・自然教室

9月14日(土) 10:00～12:30 参加者17名

実りの季節を迎えた石狩砂丘をカシワ林から浜辺まで歩く観察会でした。カシワの木について虫こぶをじっくり観察したり、海浜植物のタネを探したりしました。ヱアがマリの巣も発見。

9月29日(日) 9:30～12:00 参加者27名(こども16名)

弁天歴史公園から海浜植物保護センターまで、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」や「宝さがし」をしながら、海辺の自然について学びました。その後、宝さがしで集めた海辺の宝物(実や花)をつかって、保護センターで、オリジナルのかべかざりをつくりました。みんなすてきな作品ができましたよ。



草原で自然の宝物さがし

10月6日(土) 10:00～12:00 参加者25名(こども12名)

海辺の草原や砂浜で、ヤマブドウなどのつるや、アキグミ、コウボウムギ、クルマミなどを集め、リース(植物をまるく編んだかざり物)をつくりました。自分で材料を集めてつくったオリジナルリース、とてもすてきでした。



集めたつると木の実でかざりつけ

企画展～石狩川河口の生きもの～川をのぼるサケ・そしてさまざまな魚たち～

9月11日～23日 石狩川をサケが遡上する季節にあわせ、サケをはじめ、魚たちがすみやすい川環境を考えるパネル展示を行いました。茨戸川の魚たちも飼育展示で紹介し、こどもから大人まで、たくさんの方が身近な川にいる魚をじっくり観察し、楽しんでいました。

調査活動

9月11日 石狩海浜植物保護グループとともに、植生はぎとり後の回復状況の調査を行いました。はぎとり後は、砂地が露出していましたが、2年で植生が覆いました。しかし、ハマナスが覆った箇所、帰化植物が覆った箇所と、植生の内容はさまざまでした。(詳細は別途報告)

この調査のさいちゅう、ホソバナツルリンドウの群生を発見。ホソバナツルリンドウは環境省の希少動植物リスト絶滅危惧種(ⅡB類)に指定される種です。石狩海岸の自然の豊かさを実感するとともに、一方で、車の乗入れが止まない砂丘草原での発見。車の乗入れ規制等の対策が急がれます。

センター利用・活用

地域を知る！自然を知る！石狩浜は、絶好の海辺の学習フィールド！！

今シーズン、海浜植物保護センターを、自然や社会の学習で利用した市内小中学校は、のべ8校(市内14小中学校)。地域の自然への関心が高まり、その学習の場として活用されていることがうかがえます。

センターでは、海辺の自然を体験学習する場として、市内外問わず、さまざまな団体・学校の活用を支援します。

石狩ふるさと自然塾

9月6日・10月4日・10月18日 前期課程修了

石狩の自然について学習を深め、それを伝え、活かしていく人を育てようと、今年5月より開講している当塾ですが、10/18をもちまして前期課程が修了しました。28名の塾生のうち、18名が10回中7回以上の参加となり、優良修了証^{ゆうりょうしゅうりょうしゅうじょう}を授与^{じゅよ}されました。

塾生の多くから、大変ご好評の声をいただき、すでに観察会などで指導やサポートにあたりたり、調査に参加している方もいます。浜の活動を支える力が、塾生の中から育ってきています。



10/4 室内での学習風景

塾生のひとり、市内在住立田節子さんは、毎回欠かさず出席し、石狩の自然を熱心に観察、学習を深めました。また、同じく塾生の林迪子さんは、今年をはじめ石狩浜自然観察会での指導を引き受けていただきました。浜の自然のすばらしさ、おもしろさを伝える初めてのチャンス。どのような気持ちで取り組まれたのでしょうか。お二人から届いた感想を紹介します。

石狩ふるさと自然塾に参加できて

魅力たっぷりな「自然塾」に参加したくても足がないから……。半、あきらめていましたが、路面バスは？市役所前まで時間を確認し、チャリで走りました。本当に諦めなくてよかった！！

こよなく石狩の自然を愛し、山野草や野鳥を詳しく知り尽くされた講師の方々の熱心な説明も楽しく、専門的な話もあり、毎回資料をいただき、とてもわかりやすく、もういたでり尽くせりでした。初めて知った防風林の樹木と幼木、花。実。そして床草。八の沢の山での真っ赤なツルリンドウの実と、小さな花。石狩浜での、ルーペで見たハマボウフの花、目の前から離れないノビタキを見た喜び、嬉しくて目に焼き付いています。もう書き尽くせない数々の感動と喜び、最高の幸せな気持ちに浸れました。

石狩のたくさんの動植物との出会いが、いとおしく感じるように変わってゆく自分、自然を大切に守り育て、後生に残したいと願い、又、自然は人の心をも豊かにさせる雄大な力がある気がしてきました。誠にありがとうございました。春が待ち遠しいです。(石狩市花川在住 立田節子)

ドキドキの講師体験

6月16日、石狩浜観察会が行われました。この観察会は、石狩市・北海道・自然観察協議会三者の共催ということで、たくさんの参加者が予想されました。参加者を三つに分けて、先頭に立つ案内役の講師は3人、それに数人ずつのサポーターがつくという構成で案内することになり、駆け出しのわたしはサポーター役という予定だったのです。ところが、講師予定のYさんの体調が整わず、突然わたしが代役ということになりました。さあ、大変！下見に行き植物を確認し、図鑑を開いて名前を覚え、疑問がわいたら人に聞き、キツネの穴を確認しにまた浜へ、図書館に行きキツネの本も読んでみる……。覚えたことが頭からこぼれそうになった頃、いよいよ本番になりました。参加者の皆さんを前にして、ドキドキの初体験でしたが、力強いサポーターと浜の観察経験が豊富な参加者の方に助けていただいて無事にガイドを終えることができました。頼りないガイドでみなさんにはご迷惑をかけましたが、自分自身にとっては、貴重な経験をさせていただいたと思います。(石狩市花川在住 林迪子)

ふるさと自然塾は、2年間の修了により、市内の自然調査員や観察会サポーター・指導員として登録することができます。来年4月より後期課程を開講予定。

北の海辺の風景

冬の北国の海辺は、白銀の世界・・・なんて美しい景色を楽しむ余裕もなく、強風が吹きぬける厳しい大地となっています。雪原に立つと、さまざまな花が咲き競っていた夏のおもかげは、感じられません。しかし、夏の原生花園の様子を思い出してみると、こんな想像がわいてきませんか？雪の下には、草木の枯れ葉や低木の幹枝がたっぷりとうもれているのでは・・・？

そうなのです。冬の海辺を歩いてみると、生きものの痕跡に出会います。ノネズミ（イヅナネズミでしょう）の足跡、そして枝を食べたあと。実はこのノネズミたちは、雪の下にトンネルをつくり、埋もれた草木のタネや枝を食べて生活しているのです。冬でも元気に動き回るノネズミは、キツネやワシタカ類の貴重なエサにもなっています。

冬の石狩浜には、夏にはほとんどお目にかかれない、ノウサギの足跡も見つかります。エサの少ないこの季節、若木の枝などをさがしまわって、ここまで出向いてくるのでしょう。

夏の海浜植物の花園は、雪の下に姿を隠しながらも、厳寒の地の生きものをしっかりと育んでいるのです。



海岸草原につづくノネズミの足跡

1月～3月の活動

海浜植物保護センター学習会

石狩浜の保全を考える

日時：平成15年2月28日（金）

10時～12時

場所：石狩市総合福祉センターりんくる視聴覚室

内容：北海道各地の海辺の自然

北海道～全国の海辺の自然保全活動

講師：北大農学研究科園芸緑地学講座助手 松島肇さん

参加費：無料 参加申し込み：不要

主催・問合せ：石狩海浜植物保護センター(下記)

冬の石狩浜ウォッチング

日時：平成15年1月18日（土）

集合：9:00 石狩市役所 解散：12:30 同左

内容：冬の石狩川河口の生きものを探します。

持ち物：歩く鞋-またはスノーシュー、双眼鏡、防寒着

参加費：200円（保険代） 定員：10名（先着順）

申込締切：1月16日（木）

主催：石狩浜夢の木プロジェクト

問合せ・申込：石狩海浜植物保護センター(下記)

おしらせ

石狩海浜植物保護センター活動報告（H13度版）できました。配布希望者は下記まで。

行事への参加申込・お問合せ・通信に関するご意見等は、下記まで。

なお、11/4～4/28は冬期閉館期間となりますが、情報はホームページにて常時発信しています。

石狩海浜植物保護センター 〒061-3292 石狩市弁天町48番1 tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

冬期閉館期間：tel.0133-72-3240 fax.0133-75-2275 （石狩市役所環境課）

email：ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP：http://www4.ocn.ne.jp/~ishi-ham/